

第5期 第4回さいたま市外国人市民委員会 会議録

1 開催日時および場所

- (1) 日時：令和5年9月4日（月） 午後6時30分～午後8時30分
- (2) 場所：浦和コミュニティセンター 第15集会室

2 出席委員氏名

委員長：西川 ナンシ

委員：頼 沃徳楽、王 蕾、羅 昊、金 京垠、

ディプティ アナンダ ムルティ、山下 美賢、柳田 リサ アン

3 議題

- (1) 第5期外国人市民委員会提言内容について

4 会議の公開

公開 傍聴者2名

5 会議資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・第5期 第1回さいたま市外国人市民委員会での意見
- ・第5期 第2回さいたま市外国人市民委員会での意見
- ・第5期 第3回さいたま市外国人市民委員会での意見
- ・第5期外国人市民委員会 第4回～提言までの流れ・予定
- ・第5期外国人市民委員会 提言に向けての方向性について
- ・第4期 さいたま市外国人市民委員会 提言書
- ・第1期～第4期さいたま市外国人市民委員会提言内容について

6 内容

- (1) 第5期外国人市民委員会提言内容について

《事務局説明》

事務局より、これまでの会議で出た意見と提言までの流れについて説明しました。

- (2) 意見交換

[主な意見]

- 外国人は現在30,000人くらいいて、年間2,000人くらい増えており、外国人を支援する人が今後必要になってくる。その人達を支援する外国人も必要になってくる。支援するための知識やノウハウをトレーニングする機会が必要。そういう機会が増えることで、例えば市役所の窓口に行ったときに、アシストをしたり、コーディネートをやる人になっていく。支援をできる外国人を育てるシステムがあれば、外国人の住みやすいまちづくりにつながっていく。また外国人の活躍の場にもつながっていく。

(病院について)

- 現在妊娠をしており、区役所に行った際にいろいろな情報提供やサポートをしてもらって助かった。ただ、医者を探すのは難しかった。英語を話すことができること、女性の医者であること、痛み止めをもらえること、の3つを条件にウェブサイトで病院を探したが、うまくいかなかった。探した女性クリニックに行ったが、妊娠であれば違う病院に行く必要があると言われた。別の病院では、日本人との体の違いについて、医者から失礼なことを言われた。
- 病院を探すときに女医がいるかどうかは大事。例えばアプリで探すときも、女性、女医と書いてあってもわからない。女医がいるというマークがあれば、とりあえず女性がいない病院には行ける。女医さんマークや子供が行く病院マークがあればいい。
- 英語が話せる医者でなくてもいいが、やさしい医者が必要。
- コロナの検査やインフルエンザの検査をしてくれる病院をネットで探すリストが出てくるが、それが家の近くかがわからない。またコロナやインフルエンザのときは予約が必要になるが、予約が必要なのかもわからず、行ってみたら予約制だからと受診できなかった。
- 病院ひとつひとつの詳細を調べるのは、外国人には難しい。電話をかけてみないとわからないが、電話となると躊躇してしまう。
- 病院に行ってみても、治療してほしいものでないと、またやり直しになる。
- 妊娠や出産は外国人じゃなくても、初めてだったら大変なこと。それに関して手伝いをしてくれる外国人のボランティアがいればいいと思う。
- やはりそういうサポートの人を育てることで、住みやすい場所になっていく。
- 三者通訳のような病院に行くときに使えるツールや連絡先のリストがあるとよい。
- 昔、妊娠をして婦人科に行くときに役所に相談に行ったら、通訳の案内をしてくれたが、自分では日常会話はできると思っており、診察ではプライバシーにかかわることもあるので、通訳は断った。結局その病院に3回くらい受診を

したところで、分娩ができない婦人科だとわかり、大きい病院に行くことになった。通訳が必要な場面もあるが、プライバシーにかかわるところでは、何かアイコンなどのようなものを示して医者に伝わるようなものがあるといいと思う。

- ・病院や美容室などでは、そこだけでしか使わない単語がある。日常で普段あまり使わない単語に触れる場面が出てきた場合に困ってしまう。
- ・痛さをどのように話したらいいかわからなくて困る。何度かかかった病院に行った時に、医者が「痛さを1～10までとして、前回は5だとすると、今日はどうか」と聞いてくれて、すごく伝えやすかった。
- ・度合いを確認するときに、数字でレベルを表すと通じやすいということを伝えてくれるといい。

(情報の発信について)

- ・市のWEBサイトを見るが、しっかりとできている。もうひとつわかりやすくするためにFAQがあるといい。FAQをクリックすると一般的な質問と回答が出てくるというページを設定してみてもどうか。
- ・8歳以下の子どもや65歳以上の年配の人はWEBを使えないかもしれないので、別の方法を考えなくてはならない。
- ・市内のコンビニや外国人がよく行くスーパーに、WEBページにつながるQRコードを置いておくのはどうか。
- ・情報を伝えるためのアプローチの方法は何種類かあってもいいと思う。
- ・さいたま市には出入国管理局の出張所もあるので、在留カードを作るときにごみ捨てなど、日本の習慣を説明できるようなビデオを作ってみてはどうか。
- ・韓国に行った時に、電車の中で、電車内でのマナーなどについてのビデオが流れており、英語、韓国語、日本語の説明も書いてあった。電車で移動するときは、画面を見ている人もいるので、そういうのもいいと思う。
- ・文章で書いてあるよりも、動画や絵の方がわかりやすい。
- ・市のLINEを見ていると、日本語で色々な情報やイベントの情報が出てくるが、外国語でそういった情報が出てくるといい。言語設定ができて、色々なことが調べられて、情報が手に入るといいと思う。
- ・家族や友人が来ても、観光は東京に行ってしまう。せっかく家族や友達が来るなら東京ではなく、さいたま市のいいところを案内したいので、色々なところの情報を知りたい。
- ・市内のレストランや観光スポットを市の発信する情報に載せてあげて、そのかわりにその場所のクーポンをさいたま市に引っ越してきた外国人に配るのはど

うか。情報に載せるお店やスポットの条件としては、異文化や海外の人を歓迎するところ。クーポンをもらう側もそういった場所であれば行ってみようというモチベーションにもなる。

- ・浦和駅で物産展のようなものを行っているのを見かけるが、同じように駅の前とか、目に付く場所でPRをするといいと思う。
- ・QRコードを配って、その場でスキャンしてアクセスができるといい。
- ・さいたま市には児童館や市民プールなど、子どもと遊ぶところがいっぱいあるので、外国人の保護者に案内したほうがいい。日本人の子どもと一緒に遊べて、友達になれる。
- ・大学時代に、外国人の大学生を集めて、ルートを決めてツアーをし、文章と合わせて動画や写真を発信するというようなことをやった。
- ・さいたま市の外国人の学生に食べ物や遊びを紹介してもらって、「さいたま市の魅力を紹介しようプロジェクト」のようなものもいい。

提言テーマについて

- ・さいたま市に住んでいる外国の人が一歩先に進める内容にしたい。若くても、お年を召している、家族がいても、一人でも、みんなが含まれるものがある。
- ・母親は日本語が分からないので、一人で病院に行くのが難しい。そういうのが解決できるようなものだといい。
- ・「外国人とコミュニケーションが取れる住みやすいまち」というのが一つ。コミュニケーションだと情報発信も含まれるし、生活を向上させるという意味もある。「人の心を思いやれる場所、まち」であれば、日本人でも外国人の人も共通して言える。
- ・先ほどの、「英語が話せる医者でなくてもいいが、やさしい医者は必要」という言葉が心に残っており、「住みたいまち、やさしい地域と地域のつながり」というのを思いついた。
- ・今出た提案とコミュニケーションに関するものを合わせて提言テーマにできるといい。

まとめ

- ・今日の意見と提言テーマの案を事務局で整理し、次回の会議では引き続き提言の内容を議論していくことになりました。

以上